令和元年度

地域福祉事業配分金 事業報告

（平成３０年度募金実績）

朝来市社会福祉協議会

**【配食サービス事業】**

７０歳以上の在宅一人暮らし世帯及び高齢者のみの世帯等で、食事の確保が困難な方、安否確認が必要な方を対象に、希望される曜日の昼食と、夕食（曜日限定：生野・朝来地域　火・木曜、和田山・山東地域　水・金曜）に弁当をお届けした。平日は、保温容器弁当とパック弁当の２形態によりサービスを提供。土・日・祝祭日・年末年始については、パック弁当のみでの提供とした。

● 利用日　３６５日

● 利用料　保温容器弁当：５００円／パック弁当：４５０円

（減免対象者はいずれも３００円）

《事業財源内訳》

この事業の財源の予算内訳は、利用料収入が約４１７万円、共同募金による配分金が約２５０万円となっている。民間業者では対応が難しい山間地域への配達や制度では対応が困難な利用者宅への配達を共同募金の貴重な財源を活用し行った。

《ニーズに基づく配食サービスについて》

　より良い配食サービスを目指す為、ご利用開始時や前回のアセスメントから１年以上経過しているご利用者のお宅を訪問し、現在の生活の様子や身体状況、親族・近隣の方との関わり等に変わりがないかをお聞きした。また、食物アレルギーや服薬の関係で食べられない食品がある方には、委託業者と相談のうえ対応した。

《より効率的な配食事業を目指して》

　委託業者を２店舗から４店舗に増やし、山東・和田山地域と朝来・生野地域をそれぞれのルートでおこなう曜日を設定することで、より効率的な配達を行える様にした。

《困りごとお助け隊事業について》

サービスを希望されている方に、配食時何か困りごとは無いかお聞きし、電化製品の使用方法の説明や電球の取り換え、服薬への声掛け等を行った。

《安否確認を兼ねた配食サービス》

　配食時、ご利用者が部屋で転倒され動けなくなり、助けを呼んでおられた事があった。急いでご利用者を起こしケガ等が無いかを確認、幸いケガ等は無くその後担当のケアマネージャーに報告した。見守りも兼ねた配食サービスの必要性を感じた。

【配食利用総食数】

|  |  |
| --- | --- |
| 令和元年度 | 8,982 食 |
| 平成30年度 | 8,833 食 |

【校区・年代別利用者数】　　　　　　　　　　　　　　　（単位：名）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年齢  校区 | 60  ～  64 | 65  ～  69 | 70  ～  74 | 75  ～  79 | 80  ～  84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 合計 |
| 糸　井 |  |  |  |  |  | 3 |  |  | 3 |
| 大　蔵 |  |  |  |  | 1 | 2 |  |  | 3 |
| 和田山 |  |  |  | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 11 |
| 東　河 |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 |
| 竹　田 |  |  |  |  |  | 2 | 2 | 2 | 6 |
| 梁　瀬 |  |  | 1 | 1 |  | 3 | 3 | 1 | 9 |
| 粟　鹿 |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 |
| 与布土 |  |  |  |  | 1 | 1 |  |  | 2 |
| 中　川 |  |  |  |  |  |  |  | 1 | 1 |
| 山　口 | 1 |  | 1 | 2 | 1 | 2 | 5 | 1 | 13 |
| 生　野 |  |  |  |  | 1 | 1 |  |  | 2 |
| 奥銀谷 |  |  |  |  | 2 | 2 | 2 | 1 | 7 |
| 合　計 | 1 |  | 2 | 5 | 8 | 18 | 13 | 8 | 57 |

【校区・利用頻度別利用者数】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：名）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 利用頻度  校区 | 昼　　食 | | | | | | | | 夕食 |
| 毎日 | 週  ６日 | 週  ５日 | 週  ４日 | 週  ３日 | 週  ２日 | 週  １日 | 合計 |
| 糸　井 |  | 1 | 1 |  |  | 1 |  | 3 |  |
| 大　蔵 |  |  |  |  | 3 |  |  | 3 | 1 |
| 和田山 | 7 |  | 3 |  | 1 |  |  | 11 |  |
| 東　河 |  |  |  |  |  |  |  | 0 |  |
| 竹　田 | 3 |  | 1 |  | 1 | 1 |  | 6 | 1 |
| 梁　瀬 | 4 |  | 1 | 2 |  | 2 |  | 9 | 1 |
| 粟　鹿 |  |  |  |  |  |  |  | 0 |  |
| 与布土 | 2 |  |  |  |  |  |  | 2 |  |
| 中　川 |  |  |  |  |  | 1 |  | 1 |  |
| 山　口 | 7 |  | 3 | 1 | 1 | 1 |  | 13 | 3 |
| 生　野 |  | 1 |  |  |  | 1 |  | 2 | 1 |
| 奥銀谷 |  |  |  |  | 1 | 4 | 2 | 7 |  |
| 合　計 | 23 | 2 | 9 | 3 | 7 | 11 | 2 | 57 | 7 |

【**地域応援助成事業**】

地域内の支えあい、助けあい体制づくりを推進し、安心してわがまちで暮らせる地域をつくることを目的として取り組む区を対象に助成をした。助成メニューは以下の通り。

１．わがまち食堂応援助成

　内容）区で食堂事業を開催し、世代間交流の機会を増やすことにより地域の支えあい、助けあい体制づくりを推進した区に、1回の食堂事業で参加者が20名以上は20,000円を上限、20名以下であれば15,000円を上限に、年度内3回までとして助成した。

　実施区）実施区一覧表

↑新井二区わがまち食堂の様子

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実施区 | 実施回数 | 助成額 |
| 生野町黒川区 | 1回 | 20,000円 |
| 和田山町土田区 | 3回 | 60,000円 |
| 和田山町西土田区 | 3回 | 60,000円 |
| 和田山町東谷区 | 1回 | 20,000円 |
| 和田山町法道寺区 | 3回 | 60,000円 |
| 山東町野間区 | 2回 | 40,000円 |
| 山東町大垣区 | 2回 | 40,000円 |
| 山東町金浦区 | 2回 | 40,000円 |
| 山東町田中区 | 1回 | 20,000円 |
| 新井二区 | 2回 | 40,000円 |
| 合　計 | 20回 | 400,000円 |

成果と課題）赤い羽根の共同募金がどのようなことに使われているのか知っていただく機会となった。区によって戸数が多いところや少ないところがあるので、同じ助成金額でよいのか経過を見ていく。

２．ぷちサロン活動応援助成

内容）参加する地域住民が5名以上でそのうち65歳以上が半数以上を占めるグループを『ぷちサロン』と称し、１回の集まりに2,000円を上限に100円単位で助成した。助成の回数は年度内10回を上限とした。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 30年度 | 令和元年度 | 増減 |
| 生野 | 5 | 8 | ＋3 |
| 和田山 | 28 | 33 | ＋5 |
| 山東 | 11 | 10 | －1 |
| 朝来 | 8 | 8 | ±0 |
| 合計 | 52 | 59 | ＋7 |

実施区）旧町別　実施グループ数　昨年度比較

成果と課題）市内の高齢者が集って楽しまれる回数が増えた。今後は、福祉のグループとして、活動を共に考え手掛けていけるように支援する。

**【福祉教育活動助成事業】**

共同募金を財源とし、市内各校に対して福祉の心を育む福祉教育活動の推進を目的とした助成金を交付した。

1. 各校助成額

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学校 | 助成額 | 学校 | 助成額 | 学校 | 助成額 |
| 生野小学校 | 30,000円 | 糸井小学校 | 30,000円 | 大蔵小学校 | 40,000円 |
| 枚田小学校 | 33,000円 | 東河小学校 | 36,000円 | 竹田小学校 | 30,000円 |
| 梁瀬小学校 | 30,000円 | 中川小学校 | 30,000円 | 山口小学校 | 32,000円 |
| 生野中学校 | 30,000円 | 和田山中学校 | 30,000円 | 梁瀬中学校 | 30,000円 |
| 朝来中学校 | 30,000円 | 生野高校 | 40,000円 | 和田山高校 | 39,000円 |
| 和田山特別支援学校 | 30,000円 | 合計 | | 16校 | 520,000円 |

1. 助成を受けて新たに実施された主な活動内容

　・校区内の高齢者サロン（ミニデイ）を訪問し、地域のことを聞いたり小学校のことを紹

介したりして交流を行う。（東河小学校）

　・手話を知ったり、日常的に行ったりすることを通して、聴覚障害についての理解を深める。（山口小学校）

　・茶道部が特別養護老人ホームを訪問し、お茶会を通じて日頃のお点前を披露し、入居者と交流を図る。（生野高校）

　・地域の避難場所、避難経路を小学生と共に学び、安心安全の地域づくりに貢献することを目的とする。（和田山高校）

1. 今後の取り組み

令和２年度は慣例化された取り組みが評価される現在の助成の仕組みから、本質的で価値ある福祉教育を評価していく仕組みへ段階的に変更。

具体的には従来の継続事業を一部残しながらも、新たに社協側から福祉的な情勢や地域課題を踏まえた複数の福祉教育のメニューを提示。それらを実施しようとする学校に助成金を交付する。

**【ほっとコミュニケーション事業】**

●対象者　７５歳以上の独り暮らしの高齢者

●内　容　誕生月にお祝いの花を持って安否確認を兼ねた訪問を行った。

* 令和元年度地区別対象人数

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 地域 | 生野地域 | | 和田山地域 | | | | | 山東地域 | | | 朝来地域 | |
| 校区 | 生野 | 奥銀谷 | 糸井 | 大蔵 | 和田山 | 東河 | 竹田 | 梁瀬 | 粟鹿 | 与布土 | 山口 | 中川 |
| 人数 | 93 | 48 | 58 | 61 | 76 | 24 | 62 | 84 | 27 | 38 | 83 | 61 |
| 合計 | 141人 | | 281人 | | | | | 149人 | | | 144人 | |

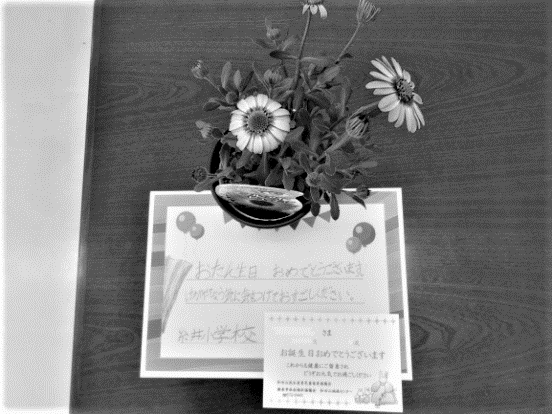
　　　合計　715人(前年比20名増)

●配達方法

　朝来、山東、和田山各地域センターは民生委員さんに依頼

　生野地域センターでは生野小学校６年生と職員が一緒にお届け

●事業効果

①小学生が訪問することによって、高齢者の方とお話し

がはずみ、とてもよろこばれている。

②糸井小学校では、毎月違う学年の児童が、工夫を凝ら

した手紙を届けてくださり、とてもよろこばれている。

③届けてくださった民生委員さんが、対象の方の食事を

気にされて、配食サービス利用につながった。

●来年度の取り組み

　令和２年度は、お花から「あさごふれ愛の郷かがやき」のクッキーをメインにした

プレゼントに変更する。「お花の世話ができない」という理由でお花を辞退されてい

た方にもお届けができるようになる。

【**あさごふれ愛の郷のぞみ宿泊訓練**】

●利用状況

実施日　　毎月基本第2・4金曜日～土曜日

訓練実績回数　18回

利用者数と職員数

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 実利用者数 | 延べ利用者数 | 配置職員数 |
| H30年度 | 16人 | 79人 | 30人 |
| R1年度 | 14人 | 64人 | 26人 |

●利用者の実態

男性～6名　　　　　　女性～8名

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 18～25歳 | 26～30歳 | 31～40歳 | 41～50歳 | 51～60歳 |
| 3 | 3 | 6 | 1 | 1 |

●家族（本人）が宿泊訓練に望まれること

「同世代のご利用者と一緒に生活することで我慢することや協力することを身に付けてほしい」

「施設以外の場所で家族以外の人と過ごすことができるように」

「決められた時間内で予定のことができるように」　　（一部抜粋）

●成果と課題

社協の独自の事業である。ご利用者個々に目標をあげて取り組みを継続している。

ショート利用に向けて準備体験ができる場としての当初の目標は達成しつつある。

【**とまり木サロン和田山**】

　近隣の方々や、和田山を訪れた方々の憩いの場として様々な方にご利用していただき

　コミュニケーションの場として日々にぎわっている。

　平成30年9月より週1回水曜日にモーニングを始め、31年4月からは月曜日も追

　加し週2回提供させていただく様になった。

　あさごふれ愛の郷ご利用者が、接客、サロン内清掃や片付け等就労訓練の場として

　日々スタッフと共に励んでいる。

●新しくオカリナ演奏イベントを始めた。

●毎月のイベント

ハンドマッサージ、歌声ひろば、折り紙教室等をボランティアグループや個人の方に

ご協力頂いている。

毎週木曜日に開催される寺谷直売所の朝市も皆様に好評を得ている。

●年間実績　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和2年3月19日現在

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 開所日数 | 利用人数 | 1日平均利用者数 | 利用料合計 |
| 241日 | 7,566人 | 31.3人 | 1,517,671円 |

**【困りごとお助け隊事業】**

ストーブの給油等、日常生活上必要だが身体的

な理由により行えない方に対し、配食弁当のお届

け時等に困りごとの有無を確認し支援を行った。

なお、遠方におられる利用者のご家族へは毎週末

ショートメールで近況報告を行っており大変喜ば

れている。

対象者：配食サービスご利用者

　　　：８０歳以上のひとり暮らし高齢者

利用料：年間６，０００円（減免世帯３，０００円）

［サービス内容］

1. ご家族への週１回の近況報告（ショートメール）
2. 電化製品の使い方の説明
3. 単品の重い荷物の移動
4. 公的文書の代読、説明
5. 話し相手
6. ストーブ等の灯油補給

**【生活困窮者相談】**

離婚・失業・転職等、一時的に生活に困窮された世帯に対し、それぞれの実情に応じた生活支援を行い、危機的な状況からの脱却に向け支援を行った。

**＜月別対応状況一覧＞**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
| 対応者数 | 8 | 12 | 17 | 14 | 11 | 15 | 16 | 12 | 17 | 9 | 12 | 16 | 159 |
| 継続 | 5 | 6 | 14 | 9 | 8 | 11 | 11 | 8 | 14 | 9 | 10 | 10 | 115 |
| 新規 | 3 | 6 | 3 | 5 | 3 | 4 | 5 | 4 | 3 | 0 | 2 | 6 | 44 |
| 終了 | 1 | 3 | 3 | 5 | 2 | 4 | 3 | 3 | 1 | 0 | 5 | 3 | 33 |

（対象者）　延べ人数　159名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位:名）

**＜主な支援内容＞**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 主な支援 | 件数 | 内　容 |
| 食糧支援 | 20件 | インスタント食品、米、食材等 |
| 生活必需品の貸与・提供など | 2件 | ガスコンロ、カセットボンベ、ランタン（乾電池含む） |
| その他 生活必需品の提供 | 1件 | 日用品、介護用品の提供 |
| 歳末助け合い事業での支援 | 9件 | 歳末助け合い運動として食糧や灯油等を提供 |
| 住宅環境整備 | 3件 | ゴミ屋敷化する世帯への清掃活動（1件）やクーラーの設置支援（2件） |
| 移動手段の調整・提供 | 1件 | 中古自転車の提供を募り、整備した上で無償提供 |
| 家族の家計管理 | 1件 | 家計のやり繰りを整理し、家族への理解を求めた |
| 小売業者との調整 | 1件 | 本人に代わり、支払いについて分割交渉を行った |
| 生活困窮者への見守り訪問 | 10件 | 生活困窮状態に陥ることを未然に防ぐため、主に高齢者への定期訪問、見守り訪問等 |



**＜歳末助け合い事業＞**

　生活困窮者等の方々に健やかで温かな新年を迎えていただくため、善意銀行にいただいた歳末助け合いの浄財を活用して食糧等をお届けした。（生活保護世帯は除く）

|  |  |
| --- | --- |
| 実施日 | 令和元年12月25日（水）～27日（金） |
| 対象者 | 社協の把握している生活困窮者　9世帯15人 |
| 食糧等 | お米、大根、おでんセット、焼き豚、ハム、ゆであずき、鏡餅、切り餅、黒豆、みかん、灯油、ポリタンク |

**＜課題＞**

スポット的な支援だけでは生活困窮の状況は変わらない。ご本人の性格、生活習慣、お金の使い方、家族関係など様々なことが年月を経て複雑に絡み合って困窮の状況を生み出している。改善していくには、支援策の拡充や関係機関の連携などはもちろんのこと、定期的・継続的にその世帯に関わっていくというその意識が必要になってくると感じている。

**【広報・ホームページ】**

①広報誌「社協だよりあさご」の発行

令和元年度も、「社協だよりあさご」を年６回（各10ページ）発行し、市内全戸（役12,300部）と関係機関等（約400部）に配布。各号でさまざまな事業や活動を紹介することで、本会への理解を深めると共に、市民へ地域福祉や地域共生社会に関する啓発などをおこなった。

また、来年度の開所を目指す「障がい者（児）複合型多機能施設」の建設に向けた動きを紹介した他、昨年度に引き続き本会の事業所紹介と地域お便り便『やっとるでぇ～』を掲載した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 号　数 | 発行月 | 主　な　内　容 |
| 第85号 | 5月 | 表紙　新しい時代も、楽しく元気に暮らしたい！  　　　（施設ご利用者の「令和」の習字）  記事　福祉なんでも相談窓口を開設！  　　　社協・社協委員の今後  　　　令和元年度活動基本方針と活動計画の概要等 |
| 第86号 | 7月 | 表紙　地域に学ぶ体験学習　地域で、施設でトライやる！  記事　福祉なんでも相談窓口のその後  　　　ミニデイ・ぷちサロンのグループLINEはじめました！ |
| 第87号 | 9月 | 表紙　ひと夏の体験　サマーボランティア  記事 「障がい者（児）複合型多機能施設」建設へ  赤い羽根共同募金　10月1日よりスタートします！  訪問介護サービスの紹介 |
| 第88号 | 11月 | 表紙　赤い羽根共同募金　街頭募金活動  記事 「障がい者（児）複合型多機能施設」完成を目指して  　　　サマーボランティア体験教室　その後…  　　 「困りごとお助け隊」会員募集中！ |
| 第89号 | 1月 | 表紙　2021年（令和2年）成人式振袖予約受付け始めます。  　　　（昨年度ご利用いただいた方々の集合写真：カラー）  記事　地域合同意見交換会を開催  　　 「障がい者（児）複合型多機能施設」建設に向けて（1）  　　　訪問介護サービスの案内（裏表紙：カラー） |
| 第90号 | 3月 | 表紙　とまり木サロンわだやまの楽しいひととき  記事 「あさご生きがいプロジェクト」始動に向けて  　　 「障がい者（児）複合型多機能施設」建設に向けて（2）  　　　社協の助成事業のお知らせ |

②ホームページ

　社協活動の紹介・情報発信の手段として、またさまざまな事業への申請等の様式提供をおこなうためホームページを公開している。ブログでは、さまざまな地域との関わりや各施設でのご利用者の様子を始め、ちょっとした季節の話題などを紹介し、タイムリーな情報発信や話題の提供に努めた。（投稿回数249回：昨年度245回）また、地域応援助成事業の専用バナーを設け、さまざまな助成金や地域活動に関する情報をより簡易にご覧いただけるようにした。

③社協リーフレット

　朝来市社協の主な事業を紹介したリーフレットを13,000部作成し、市民・団体・事業所へ会費協力依頼時に配布し、活動の周知に努めた。

④情報紙の発行

　民生委員・児童委員の皆様への地域情報誌「ハーモニー」（奇数月）や社協委員だより「～ＯＮＥ　ＭＯＲＥ～」（偶数月）を発行し、より細やかな情報発信を行った。

⑤その他

　各地域センターや各施設での行事や事業などの情報を、各運営委員やご利用者ご家族を中心に定期的に情報発信を行った。

今後も、ホームページや広報誌を始め、情報紙やたよりなどにより連携を図りながら、より有効的でわかりやすい広報活動に努めていきます。